

シンポジウム B

近年の黒潮続流の異常北偏とその多様な影響の謎に迫る

開催日時：2025 年 9 月 21 日（日）13：00～18：00

会場：第 2 会場（北海道大学函館キャンパス 講義棟 第 4 講義室）

主催：日本海洋学会

共催：学術変革領域研究（A）ハビタブル日本：島嶼国日本の生存基盤をなす大気・海洋環境の持続可能性

コンビーナー：平田 英隆（立正大学）、山口 凌平（海洋研究開発機構）、川上 雄真（気象庁気象研究所）、堀井 幸子（水産研究・教育機構水産資源研究所）、伊藤 大樹（水産研究・教育機構水産資源研究所）、杉本 周作（東北大学大学院）

趣旨

2022 年秋から 2025 年初冬にかけて黒潮続流が北方向に大きく蛇行した状態が持続し、2024 年 4 月には青森県沖合にまで到達する様子が観測された。このような黒潮続流の異常北偏は、人工衛星による海面高度観測が始まった 1992 年以降、はじめて発生した現象であり、多くの注目が集まっている。黒潮続流の異常北偏に起因して、三陸沖・北海道南東沖では海面水温が顕著に高い状態（海洋熱波）となった。高温・低栄養塩で特徴づけられる亜熱帯系の海水の北上は海洋場に大きな変化をもたらし、この影響は海洋の物質循環や水産、さらには日々の天気にも波及することが指摘されている。本シンポジウムでは、近年の黒潮続流の異常北偏やその影響に関わる様々な分野の最新の研究成果を共有し、さらに未解明の問題や今後取り組むべき課題について議論を行うことで、さらなる研究課題や学際的連携の種を探る機会としたい。また、有識者が一堂に会するこの機会に、このような現象が再び、起きうるかどうかを検討する。

プログラム

13:00-13:05 趣旨説明

平田 英隆（立正大学）

13:05-13:30 異常北上した黒潮続流（2023-2024）：現象の概要と今後の課題

杉本 周作（東北大学大学院）

13:30-13:55 黒潮続流異常北偏メカニズムの解明に向けて

碓氷 典久（気象庁気象研究所）

13:55-14:20 黒潮続流の予測性：短期・中期・長期

美山 透（海洋研究開発機構）

- 14:20-14:45 2023 年の黒潮続流の異常な北上と北日本の歴代 1 位の暑夏
佐藤 大卓（気象庁）
- 14:45-15:10 黒潮続流の大蛇行に伴う海洋熱波がもたらした記録的な豪雨・豪雪
平田 英隆（立正大学）
- 15:10-15:25 ～休憩～
- 15:25-15:50 異常北偏した黒潮続流の観測：KS-25-5 次航海速報
山口 凌平（海洋研究開発機構）
- 15:50-16:15 海洋熱波とマサバ・マイワシの分布変動
伊藤 大樹（水産研究・教育機構 水産資源研究所）
- 16:15-16:40 親潮および黒潮親潮移行域における 2010 年代半ば以降のプランクトン群集
の変化
田所 和明（水産研究・教育機構 水産資源研究所）
- 16:40-17:05 北太平洋移行域における海洋温暖化に対するカイアシ類の分布変化
立花 愛子（水産研究・教育機構 水産資源研究所）
- 17:05-17:30 サンマに近年見られる変化
富士 泰期（水産研究・教育機構 水産資源研究所）
- 17:30-18:00 総合討論

※ 前半の座長：川上 雄真（気象庁気象研究所）
後半の座長：山口 凌平（海洋研究開発機構）
総合討論の司会：平田 英隆（立正大学）